

公共事業事前評価調書(平成26年度予算要望)

所管課:空港課

担当班:企画整備班

事業名	宮古空港国際線旅客施設整備事業		事業区分	空港整備事業	事業主体	沖縄県
事業箇所	宮古島市平良下里地内					
事業の諸元	CIQ施設等の整備 A=約1,300㎡					
事業の概要	当事業は宮古圏域における国際拠点機能の強化を目的とし、出入国審査及び待合所などの空港旅客施設整備を行うものである。					
事業の必要性・効果等	<p>【必要性等】 宮古空港は観光機関等による様々なイベント等の誘致活動を行った結果、入域観光客数は2年連続で40万人を突破し、国際線旅客数も伸びている。また、宮古島市はゴルフ観光を中心としたトップセールスの誘致活動などを展開しており、今後も国際線の需要増加が期待される。 現在、国際線旅客は国内線施設を利用し、簡易的な仕切りを設けて分離しているため、待合所が手狭となり、また、保安対策等が不十分な状況である。 このような課題に対応するため、国際線旅客施設の設置が必要とされている。</p> <p>【効果等】 国際線用に十分なスペースが確保され、出入国にかかる時間が短縮される等、利便性が向上する。また、観光機関等の誘致交渉を支援することに繋がり、国際線利用者の増加が期待される。</p>					
事業期間	事業採択	平成26年度	完了(予定)	平成27年度		
全体事業費	約3.5 (億円)	補助・単独の別	単独	補助率		
事業着手の熟度・上位計画との整合性	当事業は「沖縄21世紀ビジョン」をはじめ「観光振興計画」など関連する上位計画で位置付けられており、現在は県や宮古島市等で構成する「宮古空港CIQ等連絡会議」を設置し、施設導入に向けて検討を進めている。					
環境への配慮	市の景観形成基準に配慮する。					
関係する地方公共団体等の意見	県、宮古島市、宮古島観光協会などで構成している「宮古圏域離島観光振興会議」では国際線受け入れ施設が課題だと指摘されている。さらに、宮古島市は県に対して宮古空港CIQ施設等の早期整備を正式に要請している。					
概要図(位置図)	<p style="text-align: center;">位置図</p> <p style="text-align: right;">CIQ施設等 計画箇所</p>					